

「上肢痙性麻痺に対する包括的リハビリテーションアプローチ」

佐賀大学医学部附属病院先進総合機能回復センター・リハビリテーション科助教 南里 悠介

当科外来では、発症から半年以上経った脳卒中後の上肢痙性麻痺の患者に対し、BTX、装具療法、ロボットリハビリテーション、磁気刺激療法などを併用するコンビネーション・セラピーを行い、機能改善を目指している。以下の項目について概説する。

○介護職、コメディカルの方々にも知っておいてもらいたい脳卒中を疑う3つの症状

「キーワード：顔、うで、言葉ですぐ受診！」

○脳卒中急性期リハの現状

(例：脳梗塞超急性期 rtPA 療法⇒血栓回収術後の急性期リハ)

(ADL 拡大のチェックポイント)

○脳卒中急性期におけるロボットリハビリテーション、回復期リハビリ病院との連携

～それでも残ってしまった痙性麻痺に対するアプローチ～

○BTX・装具療法の痙性に対する効果とその機序について

痙性麻痺による拘縮に対しては、筋の防御的収縮をできるだけ避けて弱い負荷で持続的に伸張することが必要である。BTX 投与後に弱い負荷での持続的伸張に装具療法を用いることは有効な手段になりうる。

○BTX・装具療法・ロボットリハビリテーション・磁気刺激療法の適応と実践方法

○今後の展望

コンビネーション・セラピーにおいてはリハビリ医、義肢装具士、療法士らが共通の治療方針のもとチーム医療を実践していくことが重要である。

講師略歴

1995年3月	弘学館高等学校卒業
1995年4月	佐賀医科大学 医学部医学科 入学
2001年3月	佐賀医科大学 医学部医学科 卒業
2001年6月1日	佐賀医科大学医学部附属病院 内科研修
2003年6月1日	唐津赤十字病院・内科(医員) 内科全般
2004年6月1日	佐賀大学医学部附属病院 神経内科(医員)
2005年6月1日	国立精神・神経センター免疫研究部(流動研究員)
2006年4月1日	佐賀大学医学部附属病院 神経内科(医員)
2010年4月1日	佐賀大学医学部附属病院 神経内科(助教)
2011年7月1日	佐賀大学医学部附属病院リハビリテーション科

内科認定医(第33664号)

神経専門医(第4226号)

脳卒中専門医(第20110116号)

医学博士号(佐賀大学 医博乙第278号)

リハビリ科専門医(第02331号)

日本リハビリテーション医学会九州地方会事務局委員に従事